

「持続可能な社会のジブンゴト化」

氏名	仲田 志穂	学校名	栃木県 宇都宮市立姿川第二小学校
担当教科等	全教科(社会・外国語・ 図工を除く)	対象学年(人数)	5年生(110名)
実践年月日もしくは期間(時数)		2022年10月～2023年3月(24時間)	



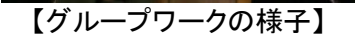
【実践概要】

1. 実践する教科・領域:総合的な学習の時間		
2. 単元(活動)名:姿二小の環境会議を開こう		
3. 授業テーマ(タイトル)と単元目標		
授業テーマ:持続可能な社会のジブンゴト化		
単元目標:身近な環境問題やその背景、家庭や地域での取り組みなどを調べる活動を通して、多様な環境問題は自分たちの生活と深いかわりがあることを理解し、環境問題を自分事として捉えて、課題解決に取り組むとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。		
関連する学習指導要領上の目標:		
(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。		
(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。		
(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。		
(文部科学省『小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』平成29年7月 p.8)		
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	多様な環境問題は自分たちの生活とも深いかわりがあることや、環境保全のために様々な取り組みが行われており、そのために活動したり努力したりしている人々がいることを理解することができる。
	②思考力、判断力、表現力等	身近な環境問題やエコ活動に関心を持ち、環境問題を自分事として捉えるとともに、必要な情報を集めたり選んだりして課題解決に取り組む、調べたことを分かりやすくまとめたり、相手に関心をもってもらえるように工夫して伝えたりすることができる。
	③学びに向かう力、人間性等	友達と協力して課題解決や実践に取り組むとともに、環境保全のために自分のできることに取り組むことを通して、自分と身近な環境との関わりを見直そうとする。
5. 単元設定の理由・単元の意義(児童観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由・意義・指導観】</p> <p>わたしたちを取り巻く環境に目を向けたとき、地球的な規模で深刻な問題が年々増加し、生活する人間にとって快適な環境とは言えなくなってきている。日々の暮らしの中で、便利なものに囲まれて生活することに慣れた今の環境が、いかに地球を蝕んでいるか、また、分かっているにもかかわらず実践にまで至っていないのが実態である。そこで、児童にとって身近である食べ物や服などに関する環境問題を導入で取り上げることで、自分も含めた全ての人が環境問題の原因をつくっていることに気付かせ、環境問題を自分事として捉え、自分たちに何ができるかを考え、生活の中で実践していく力を育てたい。</p> <p>単元を追究するにあたっては、本やテレビ、新聞、インターネット、アンケート調査、インタビューなどをして、多面的で客観的な課題追究ができるようにさせたい。また、追究したことを紙芝居、ポスター発表、劇、新聞づくり、プレゼンテーション等、課題にふさわしい表現方法になるように各自が選択できる力をつけさせたい。あわせて、多くの人に自分たちの考えを伝えられるよう、他学年や他学級との交流が図れる場所や時間を設定し、聞く人を意識した分かりやすい発表ができるように支援したい。</p>	

【児童観】


本学年は、男子 54 名、女子 56 名の計 110 名である。学習に進んで参加し、自分の意見を積極的に発表しようとする態度も見られる。一方で、興味・関心を持続させ、根気強く学ぶ姿勢が乏しい児童もいる。総合の「宇都宮学」の学習では、宇都宮市に住む生き物の生態系が崩れてしまっていることを学んだり、社会科では食料生産と自給率について学んだり、理科では温暖化の影響で天気にも影響が出ていることを学んだり、家庭科の学習では3Rについて学んだりと、様々な教科において環境問題に触れてきたが、それらを自分事として捉え、生活に生かしていくまでには至っていない。本単元では、自分たちが普段食べている物や着ている物などを切り口に、それらのものが、日本を含めた世界の環境問題につながっていることに気付かせるなど、児童が環境問題を身近に感じ、自分事として捉え、実生活に生かしていけるような授業づくりに努めたい。

6. 単元計画(全 27 時間)

場	時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
出 会 う ・ つ か む	1	What's SDGs?	SDGs について 知る。	○SDGs について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴー・ゴールズすごろくで SDGs を学ぼう(国際連合広報センター) ・動画“World's Largest Lesson - Part1 (Japanese with subtitles)” https://www.youtube.com/watch?v=H0yxJzzIFo8 ・動画“What's SDGs?” https://www.youtube.com/watch?v=QyDqENGI6g0 ・環境省「2100 年未来の天気予報 https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/2100weather/ ・開発教育協会(2020)『プラスチックごみ』 ・開発教育協会(2022)『服・ファッション』
	2			<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs のアイコンを見て、それが何の目標なのかを考える。 ・すごろく(ゴー・ゴールズ)をしながら、SDGs にふれる。 	
	3	私たちの生活と環境問題	身近なものが環境問題につながっていることに気付く。	<p>【SDGs すごろくをしている様子】</p> <p>○身近な環境問題や SDGs との関連について考える。</p> <p>1.海のプラスチックごみ ロールプレイ「海の生き物会議」を行い、感じたことを伝え合う。</p> 	
	4			<p>【話し合いの様子】</p> <p>2.ファッションと環境問題 服に関するクイズや、服の一生について考える活動を行い、感じたことを伝え合う。</p>  <p>【グループワークの様子】</p> 	

	5 本 時			3.食品ロスはなぜいけないの？ 食料自給率や、食品ロスの現状や、アジア学院の取り組みについて、クイズやフォトランゲージを行い、感じたことを伝え合う。	・アジア学院で撮影した写真 ・JICA「SDGsカード」 ・日本ユニセフ協会「13歳のアイシャの1日～水を得るために～日本ユニセフ協会」 https://www.youtube.com/watch?v=PP0IvKmLfRY ・日本ユニセフ協会「南スーダン：壊滅的な飢餓との闘い」 https://www.youtube.com/watch?v=M3Q4n4Pp_60 ・JICA「SDGsカード」
	6 本 時			○それぞれの環境問題は、どのSDGsのゴールにつながっているかを考える。 ・これまで学習した環境問題の写真と関連するSDGsを選び、選んだ理由を伝え合う。	
見 通 す	7	姿二小環境会議に向けて、計画を立てよう	これまでの経験や、体験活動から、自分なりの課題を設定することができる。	○追究したい環境問題のテーマを選ぶ。 【テーマの例】 地球温暖化、プラスチックごみ、ファストファッション、食品ロス、自然環境(森林破壊・海洋汚染・生物多様性)など	
追 究 す る	8 9 10 11 12	自分たちに行えることを考えよう	課題を解決するために、資料や体験などの中から適した情報を集めたり、まとめたりすることができる。	○テーマについて、個人で調べ学習を行い、スライド等にまとめる。	
	13 14		聞き手意識をもち、相手に伝わりやすい方法を考えながら、発表することができる。	○調べたことをクラス内で発表する。	
	15 16		環境問題解決のために、自分たちに出来る身近なことを考え、実践しようとする。	○同じテーマを選んだ人同士に分かれて、クラスや学年、家庭等でできる環境問題解決のための企画を考え、企画書を作成する。 【企画の例】 ・動画を作成して校内放送で流す。 ・環境に関するポスターや新聞を作成して掲示する ・落とし物が少なくなるような呼びかけをする。	
ま と め る	17 18	姿二小環境会議を開こう。	積極的に意見を伝え合い、お互いの企画をよりよいものに行うとする。	○姿二小 5-○環境会議を行い、それぞれのチームが考えた企画を提案し、意見交換を行うことで、企画をよりよいものにする。	

	19 20 21		誰もが無理なく続けられる、持続可能な企画を考え、実践しようとしている。	○それぞれの企画を見直し、企画を実行するための準備をする。	
広げる	22 23	自分たちにできることをやってみよう。	自分たちにできることを考え、実践することができる。	○チームごとに考えた企画を実践する。	
振り返る	24	学習の振り返りをしよう	自分の活動を振り返り、自分のよさや自己の成長について気付くとともに、これからの生活について生かそうとしている。	○単元全体の振り返りを行う。	

7-1 本時の展開(5時間目)			
本時のねらい: 食品ロスや自給率の問題について知り、自分たちの生活が、環境問題につながっていることに気付くことができる。(知識・技能)			
過程	学習活動	指導上の留意点	資料(教材)
導入 (5分)	<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨日の給食、昨日の夕食、今日の朝食を振り返る。 ・ 食品ロスについて知り、食品ロスがいけない理由をタブレットに入力する。  <p>【導入時に児童が考えた「食品ロスがダメな理由」】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨日と今日、自分が食べた物を振り返り、食べ残してしまったものに○をつけることで、本時の学習を自分事として捉えることができるようにする。 ・ 食品ロスという言葉の意味を捉えることで、本時の学習の理解を促すようにする。 ・ 食品ロスがダメな理由について児童がタブレットにまとめたものを、テキストマイニング機能を使って示し、クラス全体でどのような考えが多いかを捉えることで、導入時と終末時の考えを比較することができるようにする。 	タブレット(ジヤムボード)
展開 (30分)	<p>2 食品ロスの問題について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界、日本、姿二小の食品ロスの量から、食品ロスについて考える。 ・ 日本の自給率を知り、普段の自分たちの食の半分以上が海外の食材によって支えられていることを知る。 ・ UNICEF の動画を視聴し、世界には十分な食べ物が手に入らない地域があることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品ロスの量を、数字とスカイツリー○個分のように示すことで、食品ロスの量を捉えやすくする。 ・ 給食の残食の写真や、残食量の重さを示すことで、自分事として捉えることができるよう促す。 ・ 自給率が低く、世界には食べ物に困っている地域があるに 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食の残食の写真 ・ UNICEF 動画「南スーダン: 壊滅的な飢餓との戦い」 ・ JICA「つながる世界と日本」



【食品ロスによる様々な問題の提示】

- 3 アジア学院での取組について知る。
- ・アジア学院で撮影したいくつかの写真について、何の写真か、何をしているところかを考える。
 - ・答え合わせをしながら、アジア学院での取り組みについて知る。



【話し合いの様子】



【グループで考えたことを全体で共有】

- 4 絵本「しんでくれた」の読み聞かせを聞く。
(※当日は時間がなくなってしまったため、後日読み聞かせを実施)

まとめ
(10分)

- 5 本時の振り返りをする。
- ・食品ロスがいけない理由は何か、また今日の学習を通して感じたことや、考えたことを振り返る。



【終末時児童が考えた「食品ロスがダメな理由」】

も関わらず、食品ロスがなくなるという現状について触れることで、問題意識をもつことができるようにする。

- ・写真について、いくつかの質問に答える形で考えさせることで、考える視点を明確にする。
- (例)
- ◆ここにいる豚は何歳くらい？
 - ◆ここにいる鶏は何歳くらい？
 - ◆アジア学院の食事は自給率何パーセント？ など

- ・アジア学院訪問時に撮影した写真
- ・タブレット(スクールタクト)


- ・グループでアイデアを出し合うことで、自分と異なる視点で考えている友達の意見も受け入れることができるようにする。
- ・アジア学院が大切にしている「命をいただくこと」や「フードライフの考え方(食べることは生きること・食の循環)」を捉えることができるようにする。

- ・本時の学習に関連する図書の読み聞かせを行うことで、関心を高められるようにする。

谷川俊太郎
「しんでくれた」

- ・導入時と同じ「食品ロスがいけない理由」を問い、テキストマイニング機能を活用して示すことで、本時の学習の学びが深まったことを実感できるようにする。

タブレット(スクールタクト)

<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <p>【おおむね満足できる状況】 食品ロスや自給率の問題、アジア学院の取組について知り、食品ロスがいけない理由を自分の言葉でまとめている。</p> <p>【十分満足できる状況】 食品ロスや自給率の問題、アジア学院の取組について知り、食品ロスがいけない理由や、自分にできることを自分の言葉でまとめることができる。</p> <p>【おおむね満足できる状況に達しない児童への手立て】 グループ活動において友達の考えを参考にしながら、自分の考えに生かすことができるよう促す。</p>			
<p>7-2 本時の展開(6時間目)</p> <p>本時のねらい: 話し合いや体験活動等を通して、身近な環境問題と SDGs との関わりを知り、問題を自分事として捉えようとする。(学びに向かう力)</p>			
過程	学習活動	指導上の留意点	資料 (教材)
導入 (5分)	<p>1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 これまで学んできた環境問題について振り返る。(気候変動、プラごみ、ファストファッション、食品ロス、自然環境)</p>	<p>・これまでの学習について、写真等を使いながら振り返ることで、本時の学習につなげることができるようにする。</p>	<p>これまでの学習の様子を撮影した写真</p>
展開 (30分)	<p>2 SDGs についておさらいをする。</p>	<p>・SDGs の内容について再度確認することで、環境問題と SDGs との関係について捉えることができるようにする。</p>	<p>・SDGs お助けシート ・タブレット(スクールタクト)</p>
	<p>3 これまでに学んできた環境問題と、SDGs との関連について考える。 ・これまで授業で扱った環境問題に関する写真をいくつか用意し、その写真に関係する SDGs とその理由を考える。 ・考えをグループや全体で伝え合う。(使用する写真) ◆大量のプラゴミを食べてしまったクジラ ◆海岸のプラゴミ ◆ファストファッションのゴミ山 ◆綿花の摘み取りをする子ども ◆食べ残し ◆スーパーの売れ残り など</p>	<p>・これまでに授業で扱ってきた写真(自分たちの身近なものとの関係のある環境問題の写真)を活用することで、環境問題と自分たちの生活とを関連付けて考え、様々な視点から SDGs との関連を捉えることができるようにする。</p> <p>・スクールタクトを活用して、写真と関連する SDGs とその理由を記入することで、理解が難しい児童も他の児童の意見を参考にしながら取り組むことができるようにする。</p> <p>・紙とカードを活用しながら、話し合いを進めることで、友達同士で対話をしながら学びを深めていけるようにする。</p> <p>・ワールド・カフェでお互いの意見を交流することで、自分たちのグループだけでは気付くことができなかった考えにも気づくことができるようにし、考えを深めることができるよう</p>	
	<p></p> <p>【関係する SDGs とその理由をタブレットに入力】</p>		<p>・写真を真ん中に貼った大きい紙 ・SDGs カード ・ホワイトボード用ペン</p>

	 <p>【考えたことをグループで伝え合う】</p>   <p>【ワールド・カフェで考えを深め合う】</p> <p>4 これから自分が学びを深めていきたい環境問題を選び、その理由を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一番何とかしたい！」と思う環境問題とその理由を考える。 ・考えをグループや全体で伝え合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「一番何とかしたい！」と思う環境問題とその理由</p> <p>フードロス問題…食べられるのに捨ててしまえば食材や命の無駄になってしまうし、その生産に使った水や餌などが無駄になってしまうから。世界ではご飯が足りない人もいるのに贅沢三昧しているから。</p> <p>関連するSDGs     </p> </div> <p>【児童がタブレットに入力した考え】</p>	<p>にする。</p> <p>※ワールド・カフェとは 『カフェ』のようなリラックスした雰囲気の中で、少人数に分かれたテーブルで自由な対話を行い、他のテーブルとメンバーをシャッフルして対話を続けることにより、参加した全員の意見や知識を集めることができる対話方法の一つ。 (「ワールド・カフェの手引き」より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分が一番何とかしたいと思う環境問題は？」と問いかけることで、自分自身も問題を解決していく当事者であるという意識をもつことができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット（スクールタクト）
<p>まとめ (10分)</p>	<p>5 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを学級全体で交流することで、次時への意欲付けを図ることができるようにする。 	
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <p>【おおむね満足できる状況】 身近な環境問題と SDGs との関わりを知り、環境問題を自分事として捉え、これから学びを深めていきたい環境問題とその理由についてまとめている。</p> <p>【十分満足できる状況】 身近な環境問題と SDGs との関わりを知り、環境問題を自分事として捉え、これから学びを深めていきたい環境問題とその理由について、自分の生活と結びつけながらまとめている。</p>			

【おおむね満足できる状況に達しない児童への手立て】

グループ活動において友達の考えを参考にしながら、自分の考えに生かすことができるよう促す

9. 学習方法及び外部との連携

- ・単元計画の5時間目(本時)では、教師国内研修で訪問したアジア学院の取組について扱った。アジア学院で撮影したいくつかの写真を活用してフォトランゲージ(写真から考えられることを話し合う)を行い、アジア学院の「食べることは命をいただくこと(フードライフ)」について、教師が一方向的に示すのではなく、子どもたち自身で気付いていけるよう促した。また、栄養教諭に残食量や残食の写真のデータを共有してもらい、学習の導入で活用することで、食品ロスを自分たちにも関係のある問題として捉えることができるよう働きかけた。
- ・単元計画の6時間目(本時)では、単元の導入段階で扱った環境問題に関する写真(子どもたちの身近なものとのつながりがある環境問題)について、関連するSDGsを考える活動を行った。身近なものとのつながりのある環境問題について扱うことで、自分たちの生活と関連付けながら、様々な視点で関連するSDGsを見つけることができるようにした。また、ワールド・カフェで意見を交流し合うことで、それぞれの環境問題に関連するSDGsについて、多くの友達の考えに触れ、より多様な視点でSDGsとの関連に気付くことができるようにした。
- ・単元の導入段階である1～6時間目においては、すごろくをしながらSDGsを知る、海の生き物になりきってプラスチックごみ問題について「海の生き物会議」を行う、自分たちの着ている服がどこで作られているのかを実際に調べてみるなど、体験的な学習を多く取り入れることで、児童が環境問題に対して自分事として捉えることができるよう働きかけた。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・単元計画5、6時間目の公開授業では、校内の先生方にも声をかけ、参観して頂いた。参観して頂いた先生方から授業の感想や助言をいただくことができた。
- ・指導の流れや教材を学年の先生方に共有し、他のクラスでも実践をして頂いた。
- ・本単元とは別の取組ではあるが、総合「宇都宮学」と外国語「Unit6 I want to go to Utsunomiya!」のコラボ企画として、外国語専科の先生や学年の先生方のご協力をいただき、宇都宮学で学んだ宇都宮の良さを、外国語で学んだ表現を使って外国人の方(JICA 筑波研修員の方々)に伝える活動を学年全体で行うことができた。

【自己評価】

11. 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入時は、自分たちの身近なものとの環境問題とのつながりについて、児童は興味関心をもって学ぶことができたが、単元の最後まで興味関心を最後まで持続させながら学びを続けるように促すことが難しかった。 ・体験的な活動は多く取り入れたものの、教室内での活動に留まってしまい、様々な環境問題について自分事として捉えるような働きかけが難しかった。 ・学校独自の総合的な学習の時間の年間指導計画を少し変えて実践を行ったため、単元計画の作成や教材作成などに時間がかかってしまった。
12. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内での学習に留まらず、外部機関との連携を積極的に図り、児童が目的意識をより強くもつための工夫が必要だと思う。学級内に留まらず、学年、学校、地域と対象を広げていくことで、環境問題を解決するために自分にできることの幅が広がって児童の主体性につながり、興味関心を持続させながら学びを続けることができると思う。 ・次年度以降の5年生が教材を活用できるよう、今回作成した単元計画や教材を次年度へ引継ぎ、次年度の5年生も活用できるようにしておく。
13. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・単元計画5時間目の食品ロスの問題について考える授業では、導入時と終末時に同じ問い(「食品ロスがダメな理由」)を投げかけることで、授業を通して考えが深まったことを実感することができたように思う。 ・給食の残食量や残食の写真を示すことで、食品ロスの問題を自分たちにも関係のある問題として捉えることができたのではないかとと思う。 ・単元計画6時間目の環境問題とSDGsとの関連について考える授業では、ワールド・カフェでお互いの考えを伝え合うことで、自分たちのグループでは気付くことのできなかった意見に触れることができ、考えの深まりが見られた。

14. 学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

【単元計画5時間目「食品ロスはなぜいけないの？」児童のふりかえり】

ふりかえり

今日の授業を通して考えた、「食品ロスがいけない理由」を書きましょう。

食品ロスをやってはいけないのは、食べ物を無駄にしたり、地球を汚すこと、さらに燃やすときに出るCO2が排出されてしまうこと。アジア学院では、家畜を自分で育てて畑も手作業でやり、ご飯も自分で作っていた。さらに、残ってしまった食べ残しを肥料にして、畑に使うから無駄がなくてびっくりした。食料自給率100%なのはすごいと知った。

ふりかえり

今日の授業を通して考えた、「食品ロスがいけない理由」を書きましょう。

- 運んで来るために出たCO2が食べ残しをしたら無駄になってしまうから
- 世界では水や食料が買えない国があるのに食べ物などが充実してるからと言って、食べ残しをしていいというわけではないから
- 食べ物を作るために使った費用や水、食料が無駄になってしまうから
- ゴミを燃やすのにCO2が出て地球温暖化が更に上がってしまうから
- 農家の人が頑張って作った食べ物を捨ててしまったら作った人の苦勞が無駄になってしまうから
- 食べ物に使われた命が無駄になるから

ふりかえり

今日の授業を通して考えた、「食品ロスがいけない理由」を書きましょう。

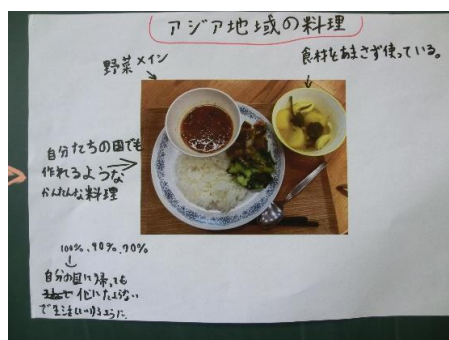
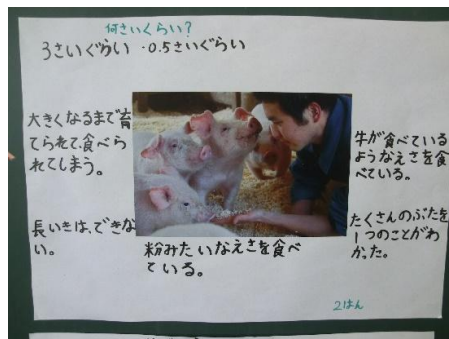
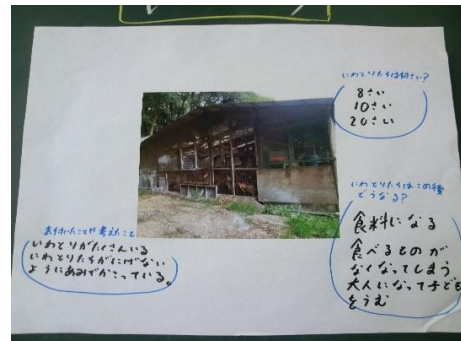
食料や水が充実している国の人々が世界の貧しい国があるのに無駄に食料や水を捨ててしまっているから。動物の命や色々な命を使っているのに食品を捨ててしまっているから。毎日、水にたくさんの時間をかけて暮らしている人がいるのに日本や他の国は水などを無駄にしているから。

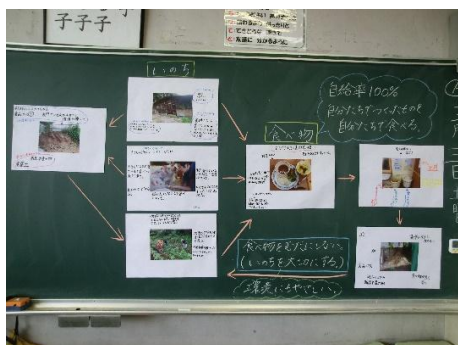
ふりかえり

今日の授業を通して考えた、「食品ロスがいけない理由」を書きましょう。

食べ物はもともと動物の命からできているから残してしまったら命が無駄になっているから。食べ物を作るのに動物の命でつくって動物を育てるのに、水やえさを使っているから動物の命だけでなく水やえさも無駄になってしまうから。

【単元計画5時間目フォトランゲージ「アジア学院の取組」児童の成果物】





【単元計画6時間目「環境問題とSDGsとのつながり」児童の成果物】



【単元計画6時間目「環境問題とSDGsとのつながり」児童のふりかえり】

「一番何とかしたい！」と思う環境問題とその理由

急な気候変動や、長い時間の高い気温で雨が降ったり気温が高すぎて死んでしまうことをなくすことや暑すぎることや雨が降りすぎてでの食料問題をなくしたい海の水温が上がってしまい魚が死んでしまうから



「一番何とかしたい！」と思う環境問題とその理由

・子どもたちが働かされていること
・子どもたちがまだ働く年ではないことや学校に行けない子など色々な不便がありだめだと思ったから。
・コットンなどを作するために殺虫剤を巻かれて命を落とすかもしれないと思ったからです。¥er/



「一番何とかしたい！」と思う環境問題とその理由

プラスチックごみ問題

自分たちが、排出したプラスチックで、多くのせいぶつたちが、死んでしまっているという現状を知ると、残酷に思えてきてしまって、可哀想だと思ったから。



「一番何とかしたい！」と思う環境問題とその理由

プラスチックごみ問題
理由
魚が間違えてプラスチックを食べてしまい、死んでしまうから。
きれいな水も飲めなくなってしまうから。
プラスチックが流れてきて陸も汚れてしまうから



<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>児童一人一人が問題を自分事として捉え、授業を通して感じたことや考えたことを、主体的に行動にうつしていくためにはどうすればよいかを考えながら授業づくりを行った。そのために、単元の導入段階において自分の身近な行動や生活が、環境問題につながっているということに気付くことができるよう、児童が普段使っている鉛筆や紙、電気、児童が好きなアイスクリームやスナック菓子などを切り口に、これらのものが全て環境問題につながっていることに気付かせたり、児童同士でお互いに気付き、考えを深めていけるようにフォトランゲージやワールド・カフェを取り入れたりと、教材や学習形態を工夫した。児童が導入段階にもった課題意識を、単元の最後まで興味関心を持続させながら学び続けていくためにはどのような手立てが必要か、今後考えていきたいと思う。また、年間指導計画に明確に位置付け、今回使用した教材を蓄積していくことで、次年度も継続した取組ができるよう働きかけていきたい。</p>
-----------------------	---

参考資料:

【SDGsに関する動画・教材】

- ・国際連合広報センター「ゴー・ゴールズ！」
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/go-goals/
- ・日本ユニセフ協会 “SDGs CLUB” <https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>
- ・YouTube ” World’s Largest Lesson – Part 1 ” <https://www.youtube.com/watch?v=H0yxJzzIFo8>
- ・YouTube ” World’s Largest Lesson – Part 2 ” <https://www.youtube.com/watch?v=9lqsGdH2Fzs>
- ・YouTube ” World’s Largest Lesson – Part 3 ” <https://www.youtube.com/watch?v=2qwvJyavQo>
- ・YouTube “What SDGs ? ” <https://www.youtube.com/watch?v=QyDqENGI6g0>
- ・JICA「SDGsカード」

【環境問題に関する動画・教材】

- ・環境省「2100年未来の天気予報」<https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/2100weather/>
- ・日本ユニセフ協会「13歳のアイシャの1日～水を得るために～日本ユニセフ協会」
<https://www.youtube.com/watch?v=PP0IvKmlFRY>
- ・日本ユニセフ協会「南スーダン:壊滅的な飢餓との闘い」https://www.youtube.com/watch?v=M3Q4n4Pp_60
- ・開発教育協会(2020)『プラスチックごみ』
- ・開発教育協会(2022)『服・ファッション』

【フォトランゲージ用教材「アジア学院について」】

<p>これはアジア学院にある、にわとり小屋の写真です。</p>  <p>この中にいるにわとりたちは、何歳くらいでしょうか。</p> <p>(ここに入力できます)</p> <p>にわとりたちは、この場所をどう使っているでしょうか。</p> <p>(ここに入力できます)</p> <p>その他、写真を見て気付いたことや考えたこと</p> <p>(ここに入力できます)</p>	<p>これはアジア学院にある、肥料の写真です。</p>  <p>この肥料は、何からできているでしょうか。</p> <p>(ここに入力できます)</p> <p>この肥料を使うことで、環境に良い影響があります。それはなぜでしょうか。</p> <p>(ここに入力できます)</p> <p>その他、写真を見て気付いたことや考えたこと</p> <p>(ここに入力できます)</p>	<p>これはアジア学院の食堂で食べた昼食の写真です。</p>  <p>どこの国の料理でしょうか。</p> <p>(ここに入力できます)</p> <p>アジア学院は、食料自給率向上パーセントでしょうか。その理由は?</p> <p>(ここに入力できます)</p> <p>その他、写真を見て気付いたことや考えたこと</p> <p>(ここに入力できます)</p>
<p>これはアジア学院にある食堂のゴミ箱の写真です。</p>  <p>何を捨てる場所でしょうか。</p> <p>(ここに入力できます)</p> <p>捨てられたものは、あるものにリサイクルされます。それは何でしょうか。</p> <p>(ここに入力できます)</p> <p>その他、写真を見て気付いたことや考えたこと</p> <p>(ここに入力できます)</p>	<p>これはアジア学院にある、肥料の写真です。</p>  <p>この肥料は、何からできているでしょうか。</p> <p>(ここに入力できます)</p> <p>この肥料を使うことで、環境に良い影響があります。それはなぜでしょうか。</p> <p>(ここに入力できます)</p> <p>その他、写真を見て気付いたことや考えたこと</p> <p>(ここに入力できます)</p>	<p>これはアジア学院で野菜を作っている様子です。</p>  <p>環境にやさしい方法で野菜作りを行っています。それは何でしょうか。</p> <p>(ここに入力できます)</p> <p>なぜ機械を使わずに、手作業で行っているのでしょうか。</p> <p>(ここに入力できます)</p> <p>その他、写真を見て気付いたことや考えたこと</p> <p>(ここに入力できます)</p>